

2022年度

Since 1969
To the future

- 2 副会長あいさつ・役員紹介
- 3 教員だより
- 4 - 8 卒業生だより
- 9 - 11 卒業生だより クラス会・OB/OG会
- 12 事務局からのお知らせ・編集後記

VOL. 26

富山高等専門学校本郷キャンパス同窓会会報

ほんごう

撮影
E9 佐伯則男「春を待つ遠見尾根に行く」



副会長あいさつ・役員紹介

ほんごう会の皆様へ

富山高専本郷キャンパス同窓会副会長
打出 孝彦 Takahiko Uchiide (C10)



富山高専ほんごう会の皆様方お元気ですか？
ほんごう会同窓会副会長の打出でございます。
若輩者ですが、宜しくおねがいします。

1969年に富山工業高等専門学校が誕生し、2009年10月に富山商船高等専門学校と合併しスーパー高専になりました。私は10回生で、今年65歳ですので、1回生の方は74歳です。現役の方もたくさんおられますが、定年退職後のかたも多いと思われます。

私は会社の経営者なので、定年は自分で決めなければいけません。サラリーマンの方は、60歳での定年後は、嘱託として残られるか、別会社に行かれるかの第二の人生に成ります。ほんごう会では、現役の方、定年退職後の方の橋渡し役と心得ています。親睦が第一で、先輩方の経験を後輩の方に伝えていければ良いのではと思います。又、学校との繋がりを継続する役割もあります。

富山高専の卒業生は、県内の企業だけでなく県外の企業からも非常に高い評価をもらっています。これも諸先輩方の努力のたまものです。富山高専の外部支援団体である技術振興会へは、県内企業130社以上が登録され、富山高専の高い評価が分かります。

ここ数年で、富山高専同窓会は、新同窓会、ほんごう会、北斗会の3同窓会に分かれました。ほんごう会は、統合前の方が中心ですが、新同窓会の方も希望者が入会します。

ほんごう会は、富山高専3同窓会の統合を目指しています。より良い同窓会に成るように活動していきますので、皆様方のご協力宜しくお願いします。

役員の紹介	氏名	卒業年/学科期	現在の勤務先	備考
会長	長浜 啓一	S48/M5	(株)KANAYA	シニアフェロー 富山高専技術振興会理事
副会長	打出 孝彦	S53/C10	北日本電機産業(株)	シニアフェロー 富山高専技術振興会代表者
	上田 一人	S58/M15	(株)Eアル	シニアフェロー 富山高専技術振興会代表者
常任理事	栗原 貞雄	S48/E5	(株)シードシステムズ	シニアフェロー 富山高専技術振興会代表者
	藤田 正良	S52/E9		シニアフェロー
	金井 毅俊	S53/K5		
	一谷 雅幸	S54/M11	(株)コラビエット	シニアフェロー 富山高専技術振興会代表者
	岡崎 信也	S56/E13	富山県議会議員	富山高専技術振興会個人会員
	鋪田 博紀	S59/K11	富山市議会議員	富山高専技術振興会個人会員
	種部 元仁	S63/E20	(株)北陸経営	シニアフェロー 富山高専技術振興会個人会員
	高清 徳義	H10/M30	(株)大谷製鉄	
関東支部長	長谷 治男	S44/M1		
監事	浜下 朝夫	S44/M1	富山高等専門学校	特任教授、コーディネーター 非常勤講師、シニアフェロー
	竹中 直志	S45/E2	丸栄運輸機工(株)	
学校窓口	佐藤 圭祐	S58/E15	富山高等専門学校	電気制御システム工学科 教授

高専機構のお仕事について

独立行政法人 国立高等専門学校機構 本部事務局 研究総括参事
高田 英治 Eiji Takada

令和4年4月から高専機構本部で研究総括参事を務めている高田と申します。多くのほんごう会の皆様には初めまして、だと思えます。平成11年4月に旧富山工業高専電気工学科助教授に採用していただき、その後、専攻科、電気制御システム工学科の教授を経て、また校務的にはイノベーションセンター長などの産学連携系の業務の後、教務主事、総務担当副校長を務めさせていただいた後、今年度に高専機構本部に異動しました。現在は東京の竹橋オフィスに主に勤務し、週に1-2度程度は、八王子本部まで通勤しております。

さて、高専機構本部に勤務する者が同窓会に寄稿することはあまりないかと思えますので、高専全体の状況を私なりにご紹介したいと思えます。同窓生の皆様のご活躍により、最近では高専システムが高く評価されており、内部で働く者にとりましてやりがいとなっています。私の関連する業務でも、令和2年度からGEAR5.0という名称の「研究高度化」を目指した予算がつき、全国に6カ所ある中核拠点高専を中心に研究面の取り組みを強化しています。最終的には「研究への取り組みを通じた教育の高度化」を目指すというものではありませんが、研究面に重きをおいた予算は初めての事です。ただ、期待が高まる一方で、成果が出ない場合に急に評価が下がることも考えられ、機構本部としましても拠点校とともに取り組みを強化しております。

また、新聞等の報道でご存じかもしれませんが、国立高専ではない新しい高専がいくつか設立予定です。例えば、「神山まるごと高専（仮称）」が「テクノロジー×デザイン×起業家精神」をモットーに、徳島県神山町に設置される予定です。その学校説明会には全国から多数の生徒・保護者が参加するなど、開設前から注目を浴びています。このように新しい高専が、新しいシステムのもとで設置される中で、国立高専も時代に合わせて変わることが必要と考えられています。実際、私が初めて富山工業高専で授業・卒研を持ったころ、「こんなに若い学生さんが自分で考えて物を作ってくる」と感動したのですが、最近の学生さんたちは、かなり普通科高校の生徒に近くなったように感じています。現場の教職員の皆様とも連携し、本部でも知恵を絞って、どう変わればよいのか、ということを考えていきたいと思えます。



現在の職場での様子

さて、私自身は大学の原子力工学専攻を修士まで修了し、放射線計測を専門としています。同窓会の佐藤圭祐先生は大学での同期で、大変お世話になってます。放射線計測は原子力のもとより、非破壊検査、医療など、社会のいろいろな分野で使用されており、決してマイナーなものではないのですが、放射線を扱うということで一般的には身近ではなく感じられるようです。私が学会で所属するコミュニティは、放射線検出器の材料や信号・データ処理に工夫を加え、その時々ニーズに応じて新しい検出器を開発する、という、頭の体操+電気工作のようなことを継続しています。その結果がX線CTやPET診断（Positron Emission Tomography）に結実しているようなイメージです。機構本部所属となり、研究はやりにくくはなっていますが、富山高専併任にもさせていただいており、できる範囲で研究にも携わっていただいております。あと数年、富山高専にも定期的に伺う生活をすると思えますので、見かけられた場合にはお声がけください。

経験こそ財産

三菱化工機株式会社 相談役

高木 紀一 Toshikazu Takagi (KI)



2020年の年明けに始まった新型コロナウイルス感染症は、医療、教育、経済活動など、私たちを取り巻く生活環境に多大な影響を与え、現在においても、当初の危機感は薄れたにせよ、未だ収束を見ない状況にあります。

現在、私は神奈川県に在住しておりますが、毎年、お盆の時期には墓参りや挨拶などで富山に帰省しておりましたが、この2年は、コロナ禍の影響で帰省もままならず、今年2022年は、第7波の環境下として短時間となりましたが、久々に富山を訪れました。その際、約40年ぶりでしょうか、今回の寄稿の件もあり、母校の富山高専を、車窓ではありましたが、暫く眺めさせて貰いました。当時、校舎の周りは、殆どが田畑でしたが、敷地内はもとより、周囲にも色々な建物が立ち並び、時代の流れを感じるとともに、数多くの思い出の場面が、断片的ではありますが、かなりクリアーに思い出されてきました。当時の同級生、先輩諸氏、先生方。今頃、どうされているのだろう、と当時の顔や声までも脳裏に蘇ってくる事に少し驚きました。確かに、高専時代、15歳から20歳までの、心身ともに一番変化する時期であり、脳の発達が一番進む時期でもあった訳ですから、純粋な記憶が残っているのでしょうか。遠目に校舎を見ながら暫し感傷に耽っておりました。

昭和49年3月（1974年）、国立富山工業高等専門学校（以下富山高専）を卒業してから、既にはほぼ半世紀の年月が経ってしまいました。昭和39年、富山高専が創立され、その5年後の昭和44年に第一期の卒業生を輩出した年、それまでの3学科（機械工学、電気工学、工業化学）に加え、新たに金属工学科（当時）が設置されましたが、私はその一期生として入学し、5年間、高専生活を送りました。高専卒業後は、通常の大学受験にて新たに大学（工学部で、専攻は化学工学）に進学し、4年後に大学を卒業してから更に大学院（修士課程）へと進み、2年後の大学院卒業後、1980年（昭和55年）4月に、26歳で現在在籍する三菱化工機に新入社員として入社したと言う、当時としては非常に珍しいと言うか、呆れ返ると言うか、実に贅沢に時間を使わせて頂いた経歴を持つ事になりました。浪人、留年した訳では無いのですが、通常より4年、多く勉強に勤しんでいた事になり、大学入学時においても、会社への入社時においても、同期の人間より常に年上の新人であったのですが、今思えば、それだけ親に負担を掛けていた訳ですから、何と親不孝な息子であったのでしょうか。

そんな幾多の経験を経て入社した会社でしたが、プラント設備のエンジニアとして、一日の5分の4は会社から出張先の現場で勤務し、国内外問わず飛び回り、今で言えば、家庭を殆ど顧みないともない夫であり父親だった様に思います。同僚や先輩などからも『お前の奥さんは、こんな亭主に文句も言わず本当に偉い』と揶揄される程、そんな会社人間でしたが、2010年から3年間、タイの子会社にMDとして赴任し、そして2015年からは当社三菱化工機の社長に就任し、昨年（2021年）、社長引退までの6年余り、相変わらず仕事中心の生活を送ってきました。現在は相談役として少しでも後進のお役に立てる様、と言

いながら、現役組の邪魔をしない様、これまでの反省から家庭優先の生活を心掛けています。

ここで、折角ですので、私の所属する三菱化工機を少し紹介させて頂くと、当社は、モノづくりを基本とした化学機械の製作、特に日本でのシェア95%を誇る船舶類の燃料用油清浄機など、分離技術をベースにした化学機械設備類の製造販売、そして多くの経験と実績に基づく総合エンジニアリング会社として、ガス、石油などのエネルギー関連設備や、化学品製造に係るプラント関連設備の建設を生業とし、近年では、今後のエネルギー問題の解決の一つとされる水素エネルギーの製造に係るプラント設備の建設にも力を注いでいます。当社の概要については、以前2019年9月にBS12チャンネルで放送された『賢者の選択』と言うインタビュー形式の番組に私自身も出演し紹介させて頂いておりますので、【賢者の選択Fusion三菱化工機】としてWeb検索 https://kenja.jp/10697_20190924/ にて検索頂き動画をご覧頂ければ幸いです。

さて、振り返れば、高専時代の5年間は、中学を出て間もないまだまだ子供の時期から、一応成人と言われる二十歳に至るまでの、いわゆる純粋な青春期における成長過程での経験・記憶であり、思いで感の違いはあるにせよ、事の大小に拘わらず、その後の各自の人間形成に影響する極めて重要な時期であった事は事実です。さすがに箸が転んでも笑う様な事は無かったと思いますが、自分なりに、様々な事柄に対し、真剣かつ深刻に悩んでいた事を思い出します。数え上げればきりがありませんが、特に印象深い例を挙げれば

1) 高専の数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ

元々、私自身、数学は嫌いでは無く、他の教科に比べて好きな方でしたが、高専の数学Ⅱで出合った“微分・積分”。これは、私の人生を大きく変えたと言える大袈裟ですが、今の自分の人生観、又は自身の哲学を形成するのに相当影響した事は事実です。『数学はまさに哲学だ』と言った人がいましたが、微積を学ぶに連れ、数学の深淵に触れて行く様で、『数学は、何と美しいものか』と一人感動し朝から晩まで自ら数学漬けだった自分を思い出します。別に、微積は、高専でなくても高校で学習するのですが、皆さん良くご存知の通り、高専では特に数学の授業が桁違いに多く、高専のほぼ1、2年で、高校から大学教養課程（学部によっては、専門課程）までの内容を済ませてしまうと言う凄まじい速さで授業が行われます。



タイ子会社赴任時

卒業生だより

私は高専卒業後、大学を受験し1年から進学しましたが、当時の大学の教養・専門各課程でのカリキュラムは、特に数学においては、高専時代の授業内容の方が明らかに高度で密であったと感じています。それ程、高専における数学の授業は質の高いものであり誇れるものだと思います。数学の課題を解こうとする時、問題の本質を理解し、それに係る理論・仮定を選び適用方法を考え、最善と思われる回答や対処を導き出す。何か人生の課題に対応する時の取組方と似ていませんか？ 仕事上の課題やトラブル対応は、分野は違っても、似た様な思考をしているのではないのでしょうか？ 数学に限った事ではないでしょうが、特に多くの理論（経験）を積み上げ、客観的に物事を判断して行く過程は、人生のチャートに近いのではないのでしょうか。当時15、16歳の私は、この時の思考回路を未だに記憶しており、これがこれまでの自分の人生観を支えているとのでは、と考えています。（数学は本当に最高です。）

当時は、石崎先生だったと思いますが、同校の生徒全員に、兎に角恐れられていた非常に厳しい、しかしながら今思えば非常に優しい、尊敬できる数学の教授でした。通常、恐れ多くて直接質問など出来ない先生でしたが、授業中、たまたま私の席に立ち寄られた際、『これに対する解は、むしろこの様に考えた方が良いのではないかと？』と質問したところ、常に速攻で解説される石崎先生が、暫く考え込まれ、その後、当方の考えを容認する様な回答をされ、いささか困った表情になったのをいまだに覚えています。その後、教壇に戻られ、再度、その件を思案されている様であり、あの石崎先生に一矢報いた様に思え、当時は我ながらちょっと愉快でした。

2) 機械工作実習

当時、金属工学科は出来たばかりであり、独自の実習設備や実験室、製図室などは、まだ整備されておらず、全て既存学科の設備を借用していました。そんな環境の中でも、機械工作実習として溶接、旋盤、鋳造などの実習があり、単に基礎を学ぶ作業ではありましたが、社会人になってこれ程役に立った知識、経験はありませんでした。当時は、その重要性が理解できませんでしたが、若い頃の体験程、貴重なものは無いと感じた次第です。

この多感な時期、当然まじめなものばかりではありません。

3) 飲酒・喫煙

寮生ではありませんでしたが、勝手に寮祭に参加し、同期の部屋で、初めて半端なく徹夜で飲酒・喫煙し、翌日、倒れるくらいの二日酔いで授業を休まざるを得ず、『酒と煙草は脳を害するものだ』と結論付けた良き教訓でした。勿論、二十歳前の出来事（今は、時効ですかね）ですが、残念ながら教訓にはならず、皆さん同様、この時から、これらを嗜む程度になったと思います。こう言った些細な（？）事は、枚挙に暇がありませんが、良きにつけ悪しきにつけ、これら経験こそ、自分の判断基準の糧になっています。そして5年間、同じ学科の同期として否応なしに共に机を並べて来た仲間たち。授業開始時の点呼名簿順は、今でも諳んじて浮かびます。I田、I川、I井——Y田の38名。

当時は、新規学科の立上げ時期でもあり、まだ設備も準備段階であるなど、色んな不便さを皆で共有していた事もあったのでしょうか、何かと纏まったクラスだった様思います。

（高専祭、体育祭などの各種行事でも、結構団結力が強く、今思えば、比較的、全員が協調性があったのではないのでしょうか。）

既に他界した仲間もおり、現在は数名との賀状のやり取りのみ、となっていますが、同期の仲間については、何故か『あの日、あの時あの場所で』を自然に思い出す不思議な面々であり、人生を過ごす中で、若さを思い起こす貴重な記憶となっています。



高専祭での仮装パレード（総曲輪・城址公園をねり歩く）

若い世代に向けて

高専における教育カリキュラムは、即戦力の技術者育成としては、量、質とも十分評価できるものであり、技術的にも相当高度なものと考えます。高専と言う、この若い時期に、これ程多くの知識と経験を与えてくれる場は他にはないと思います。私の会社の周りでも高専卒業の先輩、後輩が多数いますが、実に優秀な方々ばかりです。若い時期には、出来るだけ多くの事を、貪欲に学び経験すべきだと思います。それに伴う辛い経験・失敗なども、どれとして無駄であったり、余計なものであったりする事は無い筈です。まして、若ければ若い程、感受性も豊かで、悩みも多く、記憶の基礎部分に蓄えられ、その後の人生の糧として、自分の財産として、大いに役立つものと思います。

そして現在の技術革新の速度は、私の高専時代では想像も出来ない程スピードアップしています。我々は、授業で計算尺を習いましたが、卒業時期に漸く電卓のハシリが登場した有様です。今、当たり前のスマホ、ITなどは、当時、言葉すらありませんでしたが、技術革新に伴い自身もその社会的変化に何とか対応して来ました。ダーウインの言葉とされていますが『強いもの、頭の良いものが生き残るのではない。変化に対応できたものが生き残るのだ。』 技術的变化の激しい今の時代こそ、まさにこの言葉が当てはまります。常にアンテナを張り、周囲の環境に敏感になり、変化にいち早く対応する。そして、自らも新しい変化を創出する。変化を生み出すのは、柔軟な思考を持ち常にチャレンジする意識です。その為にも、色んな事に興味を持ち、経験し自分のものとして蓄えて行く事をお勧めします。高専で学んだ後輩諸氏、あなた方なら出来る筈です。高専生よ、頑張ってください。

嫌なことから上手く逃げ、好きなことはトコトン人生

東京都市大学 教育開発機構 副機構長／副学長補佐／FD推進センター長 教授

伊藤 通子 Michiko Ito (C11)



皆様、ご無沙汰しております。

恩師の方々、卒業生の皆様、お久しぶりです！ C11、旧姓、山田です。鏡を見ると、え！これ誰？と、自分でもビックリする63歳、5人の孫のおばあちゃんになってしまいました。でも、良くも悪くも、内面は高専生の頃からあまり変わっていない気がします。むしろ歳を重ねるにつれ自分らしく楽に自由に生きられるようになり、今が一番幸せです。休日には愛車を駆ってソロキャンプを楽しみながら全国の温泉地を巡っています。最近では孫たちが頼もしい相棒になりつつあります。

卒業後に歩んだ道

卒業は、第2次石油ショックの後で雇用機会均等法などもまだない時代でした。女子に民間からの求人はなく、どうにか国家公務員試験には受かって技官として母校に拾ってもらい、以来35年間お世話になりました。技術職員時代は楽しい思い出がいっぱいです。が、親を看取り子らも自立して一区切りがついた36年目に、今こそ人生の冒険の最後のチャンス！と、55歳で辞職、初めて富山を離れ関東での新しい生活を始めました。最初の2年間は東京大学の研究員を務め、その後、全国組織のNPO法人の事務局長をしていた時に、東京都市大学（旧、武蔵工大）の学長から教育改革を手伝ってほしいと声がかかりました。工学教育の世界は広くなく、富山高専での様々な取り組みがどこからか学長の耳に入ったようです。今は教育開発機構という部署で、全学教職員や学生と共に新しい時代に向けた教育づくりに挑んでいます。また、授業改善や教育力向上を支援するための研修を担うFD（Faculty Development）推進センター長も任されています。大学からの研究費に加え外部の競争的資金もいくつか獲得し、教育をテーマに研究を進めています。一方、学外では刺激的な研究仲間に出会い、研究成果を社会や教育界に活かす実践的活動もしています。最近では、文部科学省の仕事や、東京都の教員研修、企業の教育担当者研修など、色々な講師依頼も来るようになりました。

高専教育の評価の高さが、今の仕事につながった！

工学の世界では高専卒業生の評価は高く、どんな教育を？と問われます。単に制度や仕組みを模倣しても、教育内容や教員個々の仕事を見ても、なかなか高専教育はわかりにくく同じ教育効果を得ることは難しいようです。卒業生の皆様は、ご自身が受けた教育を俯瞰してみて、どのように捉えていますか？ 2018年に著名な社会学者による「高専教育の発見（岩波書店）」という本が出版され、一卒業生としては当たり前のことが学術的に意味づけられており元気をもらいました。

実は、本に倣い私も高専教育を調査・分析し仕事に活かしています。本では全国の卒業生が対象でしたが、私は在職時の最後10年間に行った教育を受講した富山高専の専攻科卒業生を対象としました。結果の詳細はまたの機会にご紹介できると良いのですが、誤解を恐れず簡単にまとめると、高専教育は「統合的能力を育成するカリキュラムであること」と「個々の個性が尊重される文化であること」と「特有の時間の流れが効いていること」がカギだということです。これらは、今の日本の公教育で実現されていない高専教育の強みなのです。そして、実は、世界でイ

ノベーション立国と評され競争力ランキングで上位の国々の公教育と本質的に似ています。私は世界の教育を見て歩き社会のあり方と結び付けて考えるのが好きなのですが、そんなことに気がきました。残念なのは、私たち自身にそれら優位性の自覚が希薄で、実は社会に出てから挽回可能な自らの不足部分ばかりに心が引つ張られがちなことです。

研究では卒業生調査も行い、中には住所などの個人情報の流出（！？）を危惧された方もいらっしゃいましたが、同窓会名簿の助けを借りて皆様に協力を呼びかけることができました。同窓会およびご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

好きな事を手放さない生き方

学生時代や技術職員時代の私をご存知の方は、私の肩書を見て「なぜ、あの伊藤（山田）が？」と訝しがられたことと思います、当の自分自身がそうですから。結論から言うと、好奇心と冒険心に突き動かされ、嫌なことからは逃げるが納得したらトコトン…で、ここに至った、という感じです。本寄稿にあたり事務局からは、そこをもう少し詳しく…と、言われたので、苦手ですが少し個人的な思いを書き足したいと思います。

前述した事情で就いた技術職員という仕事、化学も物理もダメな私にとっては全くミスマッチな職業でした。しかし、自分と同じ勉学に苦手意識をもつ学生に、どうしたら少しでも楽しくわかりやすくてできるのかを考え始めると仕事が少しずつ面白くなってきたのです。教え方を工夫することや、工学にこそ重要だと感じた開発や環境・人権といった社会的な要素を取り入れることに夢中になっていきました。工学そのものに身が入らない私を見て「出世しないぞ」と忠告してくれる人もいました。でも、学生たちの「学びが楽しい！」と笑う顔を見る喜びを手放す気にはなれませんでした。そのうちに、やるべきことが見えてきました。工学博士（学者）である教員と、教育方法を工夫する私がチームを組むと、実験の授業が少し効果的に行えることがわかってきたのです。やがて、講義型授業の改善の支援依頼も受けるようになりましたが、自分の能力不足を痛感する日々でした。子育ての超多忙期が過ぎ30代後半になった頃、欧米の教育を学ぶことができる社会活動に参画し始め、40代後半には放送大学で教育学を学び始めました。学生時代から長年に渡り愛あるご指導を頂いた恩師の方々、支え合い切磋琢磨し合う同僚たちに恵まれて、私は幸運でした。

あと1年半、65歳で仕事を辞めて富山に帰る予定です。大自然と温泉と美味しいものが豊かな故郷に帰ることを楽しみに、今は都会生活を満喫する毎日です。



企業に招かれ、安全教育についてプレゼン

地域の未来のために、専門家の自分たちにできることを見つけるPBLの授業

卒業生だより

ありがとう 感謝します

協伸熱処理工業株式会社 代表取締役
酒井 久裕 Hisahiro Sakai (K9)

高専を卒業して40年経ちました。私は、高専卒業後長岡技術科学大学に編入学しました。大学では、北海道から九州まで全国の高専卒が集まり、高専の延長のような雰囲気でした。学部のころは、金属工学科から機械系の学部に入ったこともあって大変苦労しましたが、なんとか卒業できました。



修士課程終了後、会社勤めをするも1年で退職し、博士課程に入学しました。

28歳まで、ほとんどが長岡での学生生活でしたが、この頃にできた人脈、先生、先輩、同輩、後輩などが、後に大きな影響を与えるものとなりました。当時大学では、企業出身の教官が多く、新しい大学、バブルということもあったことや産学協同研究など、研究費は潤沢にあったと思います。博士課程のとき、研究室が消滅するという不運もありましたが好きな研究をさせてもらいました。

富山に戻って

1990年4月、大学を中退し、父の経営する会社、協伸熱処理工業に入社しました。「熱処理は何をする会社ですか?」とよく聞かれますが、金属に熱を加えて硬くしたり、また軟らかくして加工しやすくしたりしています。刀職人が刀に焼きを入れる光景を見たことがあると思いますが、真っ赤になった鋼を急速に冷却することでマルテンサイト変体が生じ硬くなります。汚い、きつい、危険(3K)を代表するような業界ですが競合する会社が少なく、自動車、建設機械、工作機械などの重要部品として扱われるものが多く、一度受注したら他社には移らないとメリットもあります。



シャフトの焼入

会社の経営というと順風満帆でなく、何度も危機的状態となりましたが、多くの方に救われました。工場の火災事故で操業できなくなったり、不良品を流出してリコールとなったり、客先のコストダウンや海外移転のため受注量減少したり、最近ではコロナウィルス感染症の影響など苦労の連続です。火災事故のときは、県内外から多くの方に復旧作業を手伝っていただきました。後に、火災事故が縁で大口の受注をいただきました。

私は、運が強いと思っています。ピンチはチャンス、もう駄目と思っていたら助けてくれる人が現れる、さらに好転に向かっていくのです。

会社の取引先が約300社有り、多くの卒業生の方たちと知り合うことができました



「助からないと思っていても助かっている(大山15世名人)」

た。卒業生と判れば案外、親しみを持って話げできました。富山に戻ってきてすぐに高専に行き卒研の先生とお会いしました。共同研究、インターンシップの受入などの話があればすぐに受入しました。就職で学生を紹介して頂いたりもしました。私は、大学時代約5ヶ月、大手鉄鋼メーカーに実務訓練させていただいたことや、共同研究などの経験から、産学協同でお互い成長していけばと思っています。何か困りごとがあれば高専の先生や卒業生を頼って相談に行くのもいいと思います。

将棋

高専在学時代(1977年~1982年)は囲碁将棋部に在籍していました。将棋部は、全国高校選手権富山県大会4連覇するなど県内でも強豪校として知られていました。将棋は、高専1年生から始めました。4年生、5年生が高校選手権県大会4連覇を経験しており、駒落ち(6枚落ち)のハンデがあるにもかかわらず全然勝てなかった。また、高専の職員に将棋の師匠 北野悦郎さん(日本将棋連盟富山支部 前副支部長)がおり指導していただきました。高専は、4、5年生がプライドを持って下級生を導くシステムが強みです。

高専2年生のときに、高校将棋選手権団体戦で全国大会に出場したことが今でも良い思い出となっています。囲碁将棋クラブの部長や副部長を経験させてもらいました。囲碁部も県大会で優勝して全国大会で活躍するなど、囲碁将棋部は活躍してくれました。

富山に戻って2年後くらいだったと思いますが、師匠から会社に電話があり、子供たちに将棋の相手をしてほしいとのことで、星井町児童文化センター(現在 星井町児童館)や蝸川公民館、師匠の自宅などで子供たちと将棋を指していました。

星井町児童館に来ていた子供は後に小学生名人戦、中学生名人戦など全国大会で優勝したり、奨励会に入会し棋士を目指したり、女流棋士、アマチュア棋士で強豪となった人たちが誕生しました。

星井町児童館で将棋クラブに在籍していた子供たちが高専に入学し将棋部員として活躍した人も多くいます。

現在、星井町児童館の将棋クラブは第2第4日曜の午前 10:00から指導員3人(高岡支部の方と、E34山中桂一郎君と私)で運営しています。

子供たちには、礼儀作法として始めるときには「お願いします」、終わったら「ありがとうございました」と教えるようにしています。私は子供たちから多くのことを学ばせてもらいました。小学生、中学生で将棋に興味がある方、募集しています。

最後に、この歳になっても大きな怪我や病気もせず無事に生きていくことができました。また多くの方々に支えられ助けられました。ありがとうございます。感謝します。

日時: 2010年1月9日(土)
場所: 星井町児童文化センター
新年将棋大会決勝戦
対局者左側プロ棋士となった
服部慎一郎君
棋譜の記録はE34山中桂一郎君



進めばゴールに近づいていく

金剛化学株式会社 企画開発部 課長

木山 祥治 Yoshiharu Kiyama (C25) (CK1)

同窓会の皆さま、お世話になっております。私は、富山高専専攻科卒業後、原薬メーカーである金剛化学に入社し、現在は企画開発部で新製品の探索、進捗管理等の業務に携わっております。

また、私は、最後の工業化学科の卒業生であると同時に最初の専攻科機能材料工学専攻の卒業生でもあります。専攻科では、吉井先生、米谷先生の下、応用微生物学を学びました。具体的には、「光学活性グリシドール製造のためのパン酵母による酸化還元反応」をテーマに2年間実験させて頂き、いろいろな経験をさせて頂きました。その経験の下に今の自分があると考えています。本科時代あまり勉強をこなさなかった私には、米谷先生の「9時から21時までには実験室にいるように」という言葉は刺激的だったのを覚えています。専攻科では、実験を通して問題解決にどういう風にアプローチするかを教させて頂きました。

先ほども述べましたが、専攻科の1期生であり、就職活動の際は、かなり苦労したのを覚えています。まず、企業説明会に行っても「専攻科とはなに」から説明しなければいけません。企業側の方もどこの馬の骨がやってきたかのような？感じでした。そんな中、複数の企業説明会を回るなか、金剛化学との出会いがありました。金剛化学への入社への道は、企業説明会、採用試験とトントン拍子に進みました。僕も大きな企業より、200名程度の中小のほうが活躍の場がある。そして何より、家から5kmと近いというのが決めてとなりました。

だが、不安だったのが、金剛化学は、世界でシェアNo.1の製品を2つも持つ、バリバリの有機合成の会社で、僕の「知識・経験」を生かすことができるのか？が大きな問題点でした。

入社当時は、研究所で1~2年勉強し、現場で活躍してほしいといわれていました。僕も現場で頼りになる人になりたいと思いましたし、そうして研究所での1年目が始まりました。

最初の頃は、現場のトラブルシューティングを任せられました。パン酵母を扱っていた実験器具との違いに戸惑いながらも、先輩方の見様見真似で実験器具組み立てたのを覚えています。トラブルシューティングは、現場のトラブルを実験室で再現できれば8割ゴールに近づいているといわれていますが、それまで何回もトライandエラーを繰り返しくりかえり、わずかの差を観察する力が必要な仕事だと、今振り返るとそう思います。「実験で事実を積み上げ、観察力により、真実に近づくこと」トラブルシューティングを僕なりの言葉で説明するとこのような感じになると思います。

トラブルシューティングは、僕の性格にあっていたらしく、現場で実際に問題解決ができたときは、現場の人と喜び、今でもこの製品のことなら「木山に聞いてこい」という製品が数品目あるのは、ちょっとした自慢①です。

そして、ちょうどそのころ会社の方針で力を入れていた委受託の仕事にも携わるようになりました。受託は、受託先が示したレシピを工場にあてはめ、どうやったらできるか判断し、トレース検討で注意点を把握することから始まります。それから委託先との協議を重ね、金剛化学で仕事を受けることができた場合、担当者として、納期と品質を



守るように現場の作業員の方々と作りこんでいくのが仕事です。これは、事前のトレース検討で注意する箇所をどれだけ見つけられるかと、現場の方とのコミュニケーションが、大きなポイントになると思います。いまでも僕の携わった受託品が工場で作られ、最終的には医薬品に成長したのが、ちょっとした自慢②です。

そうこうしているうちに最初の1~2年という話は、どこへ行ったのか研究所に19年間お世話になり、たくさんの経験をさせて頂きました。これから技術者を目指そうという考えの若い方に一言だけ、「専門+英語」だけはしっかりと勉強しておいたほうが良いと思います。専門は、会社に入っても勉強の仕方を学んでおけばカバーできますが、今はどの職業についても英語はついてきます。専門で間口を広げ、英語で奥行きを広げ、仕事のできるスペースを広げるイメージでしょうか。これからの若い皆さまのご活躍に期待しています。

最後に私の趣味のランニングについて少し記載したいと思います。

30代後半にタバコの値上げがありました。お小遣い制の僕には死活問題です。チャンピックスという薬を使って禁煙にチャレンジしました。禁煙には見事成功したもののタバコをやめるとご飯がおいしくなるというのは本当で、体重の増加が止まりませんでした。これはやばいと思い、ランニングを始めるようになったのがきっかけです。効果は、3カ月ぐらいで出始め、次はもっと速く走りたいと思い、それなりの練習もするようになり、フルマラソンで3時間30分を切るタイムで半年後には走れるようになりました。タイムが出るようになれば次は、距離です。富山で「立山登山マラニック」という大会があることを友人から教えられました。海拔0mの浜黒崎海岸から、標高3003mの雄山山頂まで一気に走り切るというロマンを感じる超人的大会です。これだと思った僕は、一生懸命練習しました。結果、当日の天候も素晴らしく、無事雄山の山頂に立つことができました、この時の感動は一生忘れることができません。そしていつのまにか友人に誘われ立山登山マラニックの実行委員となり、昨年から実行委員長を任せられ大会を引っ張らせて頂いています。

ランニングと社会人生活には、いくつか共通点があることを発見しました。

- ①こつこつと練習すること、業務をこなすことが大切。
- ②周りには、たくさんの応援してくれる人がいる。
- ③一つの大会にゴールしても、次の大会に走る気になれば走れる。

生涯現役。

ここに記した3つを苦しいとき、思い出して日々頑張っています。最後に「立山登山マラニックの協賛金」を集めていますのでご協力いただければ幸いです。



立山登山マラニック ゴールの雄山山頂

C 4 村上勲君の叙勲を祝ったクラス会

幹事 菊 郁夫 (C4)

10年ぶりに、呉羽ハイッツでC4クラス会を開催しました(8月20日)。保護司の村上勲君が、昨年(2021年)の秋の叙勲で「瑞宝双光章」を受章したので、そのお祝いを兼ねて行いました。村上勲君は、平成9年に保護司を拝命以降25年にわたり更生保護活動に励まれ、中新川保護区保護司会や富山県保護司会連合会でも活躍されたことが評価されました。

クラス会では村上君の話題ばかりでしたが、集まった同級生は皆昔の個性のままでした。卒業から50年を経過し、風貌は大きく変化したにも拘わらず、昔のまま「俺・お前」で和気藹々夜遅くまで楽しい時間を過ごしました。まだ現役で仕事に従事している者、専業主夫(家事)、有機農業に専



C4クラス会

念、隠居生活? などなど。昨年古希を祝いましたので、次は喜寿を目指して頑張ります。

次回のクラス会は3年後。場所は「呉羽ハイッツ」に集まろうと約束し、もっと幅広く同級生に声掛けをお願いして、散会となりました。

E 5 同窓会は呉羽ハイッツで一泊

河本 伸二 (E5)



E5クラス会

富山高専電気工学科5回生同窓会を、2022年9月11日(日)、先生(武田さん・貴堂さん)2名・卒業生14名・コンパニオンさん2名の参加で呉羽ハイッツにて盛大に開催しました。

この同窓会は、卒業後定期的にオリンピックイヤーに欠かさず開催してきました。本来は2020年に開催する予定で幹事は準備をすすめておりました。しかし、コロナ感染拡大が影響し、2年遅れでの開催となってしまいました。ワクチン接種は完了しているけど、残念ながら感染予防のため参加を見送る者や、参加予定していたのに身近で感染者が出たため参加の取消になった者もいるという、いかにもコロナ禍での同窓会でした。

学校を卒業してからほぼ50年!でも再会するとみんな学生の時と同じです。親しげに名前を呼びあって、思い出話や、現況など話はずきません。体型や髪髪?等にかんがりの変化が見られますが、完全に学生時代に帰って楽しい時間を過ごしました。

武田先生はみんなに「次会うまで、絶対死ぬなよ!」と説教されておりましたよ!宴会の後の二次会も盛り上がっていました。翌朝みんなそれぞれが「次の会まで元気にしているよ!」と、自分のことはさておいて挨拶を交わしながら呉羽ハイッツを後にしました。

そうそう、次回開催は2年後、2024年パリオリンピック開催時です。それまでみんな元気にいましょうね。

M9 同級会を開催して

町 俊明 (M9)

機械工学科9回生では、これまで休むことなく2年毎に同級会を開催してきました。長引くコロナ禍のため、2018年以來4年ぶりの開催となりました。厳しい状況の中、各自コロナ対策をしっかりと取って8名が参加しました。年齢も60代半ばを過ぎ、部屋や宴会での話題は仕事、健康、家庭が中心となりました。頑張っている者、悠々自適年金生活を送っている者、そして第2の人生として喫茶店のマスターを始めた者等集まった人数にしてはバラエティーに富んでいました。

皆元気なようではあるけれど、この年になると5体満足なものはいません。なにかしら不都合があるようです。それでも、宴会後には久々のマージャンを行うものもでて頭脳・体力ともまだまだ元気です。孫や趣味等の近況報告に



M9同級会

話が盛り上がりました。

旧大沢野の「ゆーとりあ越中」の温泉と料理そして同級生との会話で心身ともにリフレッシュし、2年後の再開を約束して越中を後にしました。最後になりますが、今年5月に同級生の1名が亡くなっていました。ご冥福をお祈りします。

陸上部OB会 活動報告

副会長 松永 友宏 (M33)

7月3日 陸上部OB会の活動として 本郷キャンパスのグラウンド整備(草刈り)を行いました。当初は陸上部で使用する100mスタート地点と周回トラックのインコースだけでも整備できればと考えていたのですが、この活動をほんごう会に相談したところ、事務局よりE9藤田さんが草刈機持参で駆けつけてくださいました。また学生の保護者会である後援会からも応援にきていただき、グラウンド周辺にも手をつけることができました。

当日は先生方も顔を出してくださり、冷たい飲み物の差し入れと労いの言葉をかけてくださいました。

我々本校OBや学生の保護者それぞれの立場は違いますが、学生のために何かしてあげたいという気持ちは一緒でした。

作業の甲斐あって学生寮からグラウンドがすっきり見渡せるようになりました。

しかし、たった一日のグラウンド整備だけでは自己満足に過ぎません。

今後無理なく、継続してグラウンドの状態を維持できる仕組みが必要だと感じました。

私が中学生の時、高専を志望した理由の一つに近隣の高校にはない400mトラックの大きなグラウンドの存在もあったと記憶しています。この大きなグラウンドを荒れ果てた状態にしておくのは非常にもったいないと思います。

これから高専に入学してくる後輩たちは、勉強だけをするために入学するものではありません。仲間と共に汗し、10代のラスト5年間という大切な時間を目一杯ぶつけることができる環境で、学生生活を送らせてあげたいと思いました。

最後に、活動にご協力いただいた皆様にはお礼申し上げます。ありがとうございました。

グラウンドの状況



草刈り前



草刈り後

C9で第一回宮谷先生を 偲ぶ会を開催しました

幹事 伊藤 陽二 (C9)

私達の卒業時の担任宮谷先生が四月に亡くなりました。家族葬でしたので後日、有志7名で弔問しました。そこで宮谷先生を偲ぶ会をやろうと話がまとまりましたので、8月6日に高志会館で懐かしく、楽しく(不謹慎)集いました。コロナ禍で参加出来ない人が多く、タイトルを第一回と入れまして第二回目の開催を計画しています。



C9クラス会

E9 ミニクラス会

幹事 藤田 正良 (E9)

10月21日、富山駅中の「八兆屋駅の蔵」でE9ミニクラス会を開催しました。昨年(令和3年12月18日)開催した「小川勝先生の叙勲受章のお祝い」には、17名が集いました。しかし、参加予定だった名古屋在住の朽木清君が、当日の大雪・暴風予報のため泣く泣く断念されました。今回、朽木君が本郷キャンパスOBゴルフコンペ参加で富山へ来た機会に、有志が集まってミニクラス会を開催しました。今回参加できなかった同級生の話題や65歳を過ぎた退職後のライフスタイル、子供や孫の自慢、自分の病気の自慢などの話で盛り上がり、あっという間に時間が過ぎました。次回は、



E9ミニクラス会

「みんなが集まれるクラス会をやろうぜ」「次の幹事は誰だれだったっけ?」「最近昼のランチ形式も流行っているんだって」などなど思い思いを言い合いましたが、話はまとまりません。でも、固く再会を誓っての散会となりました。

ひつじかい

一谷 雅幸 (M11)

昭和49年度入学の仲間とゴルフコンペを開催しています。日本全国から中国やベトナムからも集まり10年以上継続しています。年に3回程度の開催で、出来る限り続けていきたいと思えます。我々の「ひつじかい」の命名は、卒業時に世の荒波に負ける事なく「ひつじ」ではなく方向を決める「ひつじかい」の様に生きようと考えたものです。今回の参加者は、機械工学4名、電気工学4名、工業化学1名、合計9名でした。多い時には12名以上は参加しています。今は半数以上が引退して気楽なゴルフ三昧です。



ひつじかいゴルフコンペ

事務局からのお知らせ

1 おめでとうございます

「春秋褒章」受章のお知らせ

年度	賞賜	学科期	氏名	主要経歴
2021年秋	藍綬	M3	石山彰雄	元 調停委員
2021年秋	瑞宝双光章	C4	村上勲	現 保護司
2022年春	旭日双光章	E2	竹中直志	元 全日本空手道連盟理事

2 同窓会誌への投稿お願い

会員皆さんの近況や職場を、会報で紹介させて頂きますので、是非とも投稿をお願いします。また、クラス会やOB/OG会を開催された場合も、どしどし下記事務局Eメールアドレスまで送付をお願いします。投稿頂きました会員や団体の方には、従来通り助成金をお送り致します。

3 会員情報変更手続き

ほんごう会ホームページより、会員情報の変更が出来るようになりました。住所・勤務先・連絡先等の変更がありましたら変更登録をお願いします。

4 おくやみ申し上げます

2022年度に逝去された先生です。

小島 次雄 2022年 1月
浦井 茂雄 2022年 4月
宮谷 大作 2022年 4月 (敬称略)

編集後記

同窓会誌ほんごうVOL. 26の発行に際し、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

発行担当となってこれで3回目となりますが、卒業生だよりに登場していただく方々との出会いを楽しみにしております。次号はこの誌面を読んでもらえるみなさんかもしれませんので、マイストーリーの準備をお願いいたします。

さて40年前に始まったマイ高専ストーリー。南砺市（旧福野町）の実家から城端線の無人駅で汽車に乗り高岡で乗換え富山駅まで。そして国立高専行きのバスで富山市内のにぎやかなところを通り学校へと向かったことを思い出します。（1年生の時はいろんな意味で遠かったです）

現在、縁あって高専行きのバスが通る沿線で富山市中心部に近い西田地方校下というところに住んでおります。55歳にもなると地域の役回りもあり、役割をいくつも引き受けることに。

実はここでも高専つながりがあり、自治振興会長はE5河本伸二さん、相談役はK11鋪田博紀さん、体育協会理事長はM19鋪田信博さん、そしてPTAや地域の役をいつも引き受けてくださるM19水口靖裕さんと高専の先輩方に助けてもらっています。

卒業後35年になりますが、富山高専のつながりにありがたみを感じながら日々を過ごしています。

(種部)

事務局&編集担当

- ・藤田 正良 (E9) : fujimasa70@gmail.com
- ・種部 元仁 (E20) : tane@b.email.ne.jp

ほんごう会
事務局

HP <https://hongokai.sakura.ne.jp/>
Eメール toyama@hongokai.sakura.ne.jp

